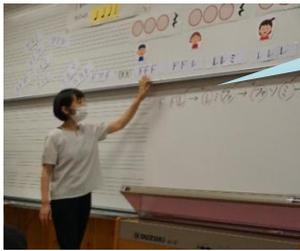


学年	教科等	題材名	日時
第4学年	音楽科	音の動きを生かしてせん律をつくろう	令和3年6月28日(月)6校時
研究内容1の手立て	<p>子どもが演奏をするときに得た心の動きや、よいと感じた根拠のようなものを共有することによって、みんなで音楽をつくりあげることの楽しさを味わうことができる。そこで、本題材全ての時間で、思考ツールを使用して学習をふりかえる。これは、音楽をつくる前の思いや意図と、授業終盤の自分の変容の間に仲間のどのような発言や音楽が起因しているかを書き込むものである。学習のふりかえりの仕方を工夫することで、仲間との学びがつながり、協働的な学習のよさを実感しながら、音楽づくりの発想を得ることができるのではないかと考える。</p>		
研究内容2の手立て	<p>本題材は、音の動き方に着目して旋律をつくる学習である。常時活動として、これまで学習した曲や日常的によく聴く音楽の旋律の一部を取り上げ、「続く感じ?終わる感じ?」と問い、感覚的に捉えたものから音の動き方を根拠に「続く感じ」「終わる感じ」が捉えられるようにする。その際、扱う曲は「春の小川」を選定する。「春の小川」は、旋律の動きが視覚化しやすく、「続く感じ」「終わる感じ」が比較しやすいからである。また、題材の導入段階で、わらべうたのふしを用いて言葉遊びや簡単なふしづくりをする活動を取り入れることで、幼いころから遊びのなかでふしづくりをしてきたことを想起させ、題材に興味をもつことができるようにする。このような活動をとおして、即興的に音を選択して表現することや音をつなげることのおもしろさを実感できたとき、遊びのなかでも言葉にふしをつけて歌うなど日常生活を潤いのあるものにするのではないかと考える。</p>		

○ 子どもの姿からの報告

先生がつくった旋律、どうかな? (ドドド ドドレ レレレ レミレ)



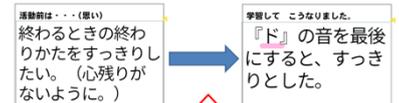
同じ音が続くな。

音があまり動かないから、もっとたくさんの音を使った方がよいと思います。

子どものふりかえり (ロイロノート)

4つめは、どのようにすると終わった感じになるかな?

音を下げると終わった感じになるね。



それは、みささん・ゆうなさん・りおさんが、『ド』の音を最後にひいていて、終わった時、「終わったんだ」とすぐに分かったから。

ドで終わるとすっきりするね。

仲間が旋律づくりのこつを教えてくれたから、まとまった感じの旋律ができたよ。



○ 考察

- 思考ツールを用いて自分の変容とそこにかかわった仲間の言動等についてふりかえりをする中で、子どもが少しずつ他者との協働を意識できつつある。仲間とのかかわり方や、学びの深まりを教師が把握することができるため、協働して学んでいることを実感しているふりかえりを価値付けすることができた。
- 本時のめあての「まとまりのある旋律」という言葉を教師が提示した際、子どもはまとまりのある旋律がどのようなものか、漠然と捉えていた。前時の活動のふりかえりから子どもが「本時は、仲間とまとまりのある音楽をつくりたい」と、思いをもつことができるような手立てを講じる必要がある。そうすると、旋律づくりの視点が定まり、子どもの話合いが充実するのではないかと考える。
- 子どもがロイロノートの操作に時間を要したため、全体的な時間配分を考える必要がある。子どもが音にふれて試行錯誤する時間も確保したいため、タブレットの録音機能を有効活用するなど展開段階の活動の在り方を検討する必要がある。

御意見・御質問はこちら (研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○ 本時の目標

旋律のまとまりや終わり方について考え、旋律づくりの発想を得ることができる。

○ 本時の指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 前時の活動を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音型のリレー <p>2 本時学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあて <div data-bbox="108 461 727 566" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>音型をつなげて、まとまりのある旋律をつくらう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旋律づくりの条件の確認 <div data-bbox="108 600 727 801" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3人グループでそれぞれがもち寄った音型をつなげる。 ・ 1小節目の初めの音は、ド・ミ・ソから選択する。 ・ 4小節目は、グループの全員で考える。 </div> <p>3 旋律づくりをする（3小節目）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 音の動き方や音型の順番についての話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトボードまたはロイロノートで音型つなぎの操作 <p>(例)</p> <div data-bbox="156 1010 683 1061" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">ドレミ</div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">ミレミ</div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">レミファ</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ まとまりのある旋律の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の動き方 ・ 小節目のつなぎの音が離れすぎないこと <p>4 最後の1小節をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旋律の終わり方 <p>(例)</p> <div data-bbox="86 1384 711 1451" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">ドレミ</div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">ミレミ</div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">レミファ</div> → <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">ミレド</div> </div> <p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協働的な学びのふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・ 思考ツールを用いたふりかえりと共有 <p>(例)</p> <div data-bbox="172 1619 711 1827" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>活動前の思い</p> <p>仲間ときれいに旋律をつなげたいな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>学習してこうなりました。</p> <p>まとまった旋律になりました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>それは、○○さんが音の動き方が下ると終わる感じになることを教えてくれたから</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の条件に基づいた音型を複数の仲間とつなげる活動を仕組むことで、前時の内容を想起させるとともに、仲間と音型をつなげる活動への期待感をもつことができるようにする。 ○ 本時は4小節のまとまりのある旋律をつくることを告げ、「まとまりのある旋律」とはどのようなものかを問うことで、本時学習の見通しをもつことができるようにする。 ○ 教師が音型カードを無作為に選び、演奏して聴かせることで、音の動き方や旋律のまとまりについて考える必要があることに気付くことができるようにする。 ○ まとまりのある旋律かどうか、演奏を聴きながら音の動きを確認するよう告げることで、必要であれば音型の修正や演奏の順番を考えることができるようにする。 ○ いくつかのグループの旋律を紹介した後、音の動き方に矢印をつけて可視化することで、まとまりのある旋律の特徴を全体で共有することができるようにする。 ○ グループのなかで1人が終わる感じの旋律を考えついたら、なぜそれが終わる感じになるのかを共有させることで、同様の考え方で他にも旋律ができないか、考えられるようにする。 ○ 自分の学びと深くかかわった仲間の発言をつなげてふりかえる姿を価値付けし、仲間と音楽をつくりあげるおもしろさを感じられるようにする。

○ 本時の評価規準

旋律のまとまりや終わり方を聴き取り、「続く感じ」と「終わる感じ」のちがいを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととのかかわりについて考え、まとまりのある旋律づくりの発想を得ている。

(思考・判断・表現)【観察・学習プリント】